

平成30年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立遠山小学校

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに
～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

2 本年度の重点化された具体的な目標

①確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、基礎学力の向上を図る。 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、問題解決型の学習を充実させ、習得・活用・探求という学習サイクルの確立を目指す。 学校林「駒の森」を活用した環境教育を行う。
②豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫改善を図る。 全教育活動ととして「差別をしない、差別を赦さない」という理念を持った児童を育てる。 学校行事などの集団活動を通して、協力し合い、自ら進んでより良い学校生活を築こうとする態度を育成する。
③健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握し、体育の授業及び日常生活における運動実践の充実に努める。
④キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動をキャリア発達の視点で関連付け、キャリア発達を支援する。
⑤グローバル化に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 成田市小中学校英語科指導基準に基づいた英語教育を充実する。
⑥地域と共に歩む学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより・学年だよりの発行や学校ホームページの随時更新により、情報発信に努める。
⑦安全安心な学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 防災教育を充実し、「自分の身は自分で守る」という防災意識の定着を図る。
⑧特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 本人・保護者の立場に寄り添いながら、合理的配慮に関する共通理解を構築していく。
⑨教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 校内行事等のスリム化を図り、業務の総量を減らすことで児童に向き合える時間を創出していく。

3 自己評価結果 ※A(適切) B(ほぼ適切) C(やや不適切) D(不適切)

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学校運営 教育課程	保: 児童は学校が楽しいと感じているか	保護者の100%から「適切である」との支持を得た。	A	「学校が楽しいか」という設問に対する肯定的評価が、児童、保護者ともに100%であった。その他の学校全般に関する設問に対しても、保護者からの肯定的評価がほぼ90%以上と高い評価をいただいている。しかし、学校行事のあり方や授業改善など取り組むべき事項は多々あると考える。今後も不断の努力を行い、保護者や地域の方々のニーズに応えていきたい。
	保: 行事の時期や内容は、学校や児童の実態を考慮して実施されているか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児: 遠山小は、明るく楽しい学校だと思いますか。	児童の100%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 学校行事は適切に行われていると共に充実しているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
学習指導	保: 授業はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の95%から「適切である」との支持を得た。	A	「担任の授業の教え方」についての高評価に甘えることなく「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善を行っていく必要がある。次年度は、過当たりの時数が1時間増となり、総合的な学習の時間が週2時間となる。これを機会に、学校林「駒の森」を中心とした環境教育にも力を入れ、特色ある学校づくりをしていきたい。
	保: 学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の84%から「適切である」との支持を得た。	B	
	児: 担任の先生の教え方はわかりやすく楽しいか。	児童の98%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 毎時間学習問題を児童に提示しているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
	職: 児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	教員の86%が「十分」「概ね十分」と考えている。	B	
生徒指導	保: 児童が困っていたり、悩んでいたるときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者や児童から高評価をもらっているが、まだまだ児童からの相談に十分耳を傾けることができていない例もある。一人一人の立場や考え方をよく理解し、公平な姿勢で教育相談に取り組めるよう研修を充実していきたい。 教職員から児童の基本的な生活習慣の指導についてまだ十分ではないという声が上がっている。保護者に対する働きかけが十分行えなかったという反省もあるので、それぞれの家庭の事情に合わせてどのような声掛けが効果的か考えていく必要がある。
	児: 担任の先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりをしてくれたりするか。	児童の89%から「適切である」との支持を得た。	B	
	児: 担任の先生は、困った時にいっしょけんめい相談ののってくれるか。	児童の96%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	保護者の78%から「適切である」との支持を得た。	B	
	職: 児童のことについて職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
道徳 人権教育	保: 相手の立場を考え、協力する子に育っていると思うか。	保護者の89%から「適切である」との支持を得た。	B	道徳を中心に「豊かな心」を育むことに取り組んできたが、まだまだ十分ではないとの評価であった。今後も「考え議論する道徳」を目指すとともに、環境教育等を通して自然(命)の大切さを実感できるような実践を積み重ねていきたい。
	保: 自然を愛し、命を大切に子に育っていると思うか。	保護者の88%から「適切である」との支持を得た。	B	
	職: 学校人権教育の充実を図っているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保健 安全管理	保: 安全面での配慮がなされており、安心して生活できる学校となっているか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者から、運動に関してまだ十分ではないという評価をいただいている。外遊びを推奨するとともに遊・友スポーツランキングに次年度も挑戦させるなどして運動に親しませていく。
	保: 運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の78%から「適切である」との支持を得た。	B	
	職: 施設設備の活用及びその保全の充実を図っているか。	教員の90%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保護者・地域 との関わり	保: 学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができる。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	学校からの情報発信については、今後も適切に行っていく。 一部の保護者からは「遠山小は親が参加する行事が多い」という指摘を得ている。スクラップ&ビルドの姿勢で行事等の見直しを図り、学校、保護者双方の負担が減るよう努力する必要がある。
	保: PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取組が見られるか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	

4 自己評価の結果の分析

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、教員一人一人の指導力を高め「わかる授業」を提供できるよう努める必要がある。特にICT機器の活用を進め、視覚に訴える授業を推進していきたい。
- 道徳の教科化に伴い、「考え、議論する道徳」の在り方を研修を今後も深めていく必要がある。また、プログラミング教育の導入に伴う教職員研修を充実させることが必要である。
- 運動に関しては保護者アンケートから、まだ十分ではないという評価をいただいている。外遊びを推奨するとともに遊・友スポーツランキングに挑戦させるなどして運動に親しませていきたい。
- 保護者や地域から温かい支援を受けている。この良好な環境に甘んずることなく一人一人の児童または家庭に寄り添った教育を継続していく。
- 行事の精選を進め、余裕のある教育課程を編成していく必要がある。保護者への情報発信を適切に行い、理解を求めていくことを大切にしたい。